



参加型学習方法を取り入れた社会教育学に関する授業

人間科学部 金 藤 ふゆ子



大学院博士課程修了後、東京都立教育研究所、茨城県内私立大学の勤務を経て2013年度から本学に着任。専門は社会教育学、教育社会学、生涯学習学。研究テーマは成人を対象とする学習プログラム編成過程研究や、児童生徒を対象とするExtended Learning(放課後プログラムを含む)の実態や効果、及びその事業に関する教育政策に関する国際比較研究に取り組んでいる。特に社会的に恵まれない状況に置かれる児童生徒にとっての放課後プログラムの内容とその効果の分析に関心がある。
(かねふじ ふゆこ)

人間科学部の学部授業では社会教育主事(社会教育士)の資格取得に関する科目である「社会教育経営論Ⅰ」「コミュニティと社会教育」「生涯学習学概論」や、教員免許状取得に関する「教育社会学」を担当している。社会教育主事資格に関する科目では、参加型学習方法としてのフィールドワークやディベートの手法を採用した授業を実施している。ここでは前者2科目「社会教育経営論Ⅰ」、「コミュニティと社会教育」の具体的内容をご紹介します。

1. 「社会教育経営論Ⅰ」におけるフィールドワークを取り入れる授業

社会教育経営論Ⅰは、人々の学習を支援する社会教育施設について人的・物的・財政的面や事業の実態、及び施設の意義・役割や課題の理解を目的としている。そのために本授業では講義と共に、学生自らが地域にある公民館・図書館・博物館等の社会教育施設の職員を対象とするヒヤリング調査に取り組む。

殆どの学生は、過去に図書館や博物館等の社会教育施設を利用者として活用した経験はあっても、施設の専門職員を対象とするヒヤリング調査の経験はない。調査にあたり学生はグループ別に訪問したい施設案を検討し、決定する。そして自らが施設に電話をかけて本調査の趣旨をご説明し、訪問の可否を尋ね、アポイントメントを取る。そうした作業からフィールドワークとしてのヒヤリング調査の学びが始まる。本調査の内容や趣旨をご説明

して施設側の理解を得るまでには、メール等を含めて複数回の施設側とのやり取りが必要となる場合もある。実際のヒヤリング調査では、学生はICレコーダーや手土産の文教クッキーを持参し(授業予算で賄われる)、成人としてのマナーにも配慮してグループ別に特定の社会教育施設でのヒヤリング調査を実施する。

現地調査にあたり、各施設の基礎情報を予めホームページで検索して学習し、施設側へのご負担を少なくする。また直接おうかがいしなければお聞きできない職員の観点から見た施設経営の現状、課題、展望等をお尋ねする。そうしたフィールドワークを経て得た情報を基に、学生はグループでプレゼンテーション資料を作成し授業内での発表を行い、意見交換をする。そうした学習活動を通じて学生は社会教育施設の現状や課題を肌で感じ、課題の原因や解決の方途を深く検討する。

